

「本山寺山森林づくりの会」活動報告(9/16)

武田壽夫(文、写真)、倉谷邦雄(写真)、山 國(写真)

日 時：2018(平成 30)年 9 月 16 日(日) 9:30～15:30

気 象：天候=晴→薄曇→少雨(気温：計測忘れ)

活動エリア：44 林班い・に、45 林班ろ・04・に-02・03 ほか

活動内容：台風 21 号による通行障害の回復と被害状況確認未了地域の巡視 など

参加者：泉家恵子、斧田一陽、倉谷邦雄、河野直子、後藤和子、薦田佳一、黒山泰弘(午前)、

武田壽夫、中久保忠伸、中村賢三、宮本 廣、山 國

(計 1 2 名)

<ともかく安全に通れる山道を…>

前回(6日)目にした光景は南に開いた谷は倒木累々、自然歩道も風が抜けた辺りは根起しが倒れ掛り、各所で通行障害。ここは一番、何とか通れるように、また、見残した山頂部や国有林南側の里道、モニタリング調査区の様子も心配。幸い、今日は中腹の参拝者駐車場へは車で進むことが出来、車中、山の様子を気にしながら小屋に向う。

<課題は山積…どこまで出来るだろう>

自然歩道の天狗杉付近に 4 人(=①組)、本山寺手前の小祠「三嶽大権現」から自然歩道に抜ける脇道に 5 人(=②組)、44 林班の南部分と 45 林班の山頂部の巡視に 3 人(=③組、午後は 2 人)と三組に別れて小屋を出発。連休、晴れとあって、家族連れ・トレイルランナーを含め、ハイカーは多数。

<今日の成果？>

道を塞ぐ枝折れや根起しは山腹の傾斜と太さで幹には手がつけられぬ。被さる枝を切って通路を確保する。切った枝は勿論「棚積み」。とは言え①②組は、複雑に重なる枝に鋸を入れる手順を思案しながらの作業。頭も使いながら、ようやく天狗杉付近で約 50m、脇道では 3ヶ所・約 15m の通行困難を解消、終りに赤テープを巻くなど、慎重な通行を喚起。(計約 15 本の支障木を整理、②組は倒れていた里道への分岐標も仮設)

巡視組は午前中に 45 林班の南域、午後は山頂部周辺の 44 林班北域を踏査。45 林班内の里道「S2・3」と途中のモニタリング調査区、幸い谷筋を含め大きな荒れは見当たらず、今後の作業に支障はなさそう。しかし、山頂部では、東の山腹寄りに倒木群が見られ、さらに里道 M3 のモニタリング調査区方面は倒木が密に重なり前進を妨げていた。とりあえず山頂部の尾根を少し整備して下山。

作業中、行き交うハイカーに引き返す、或いは高巻きを教える、山頂部で道を間違えている人には安全なルートを教えるなど、口も忙しかった一日。帰途、本山寺境内の関伽水は水源地からのパイプが修理されたのだろう、いつもの水量に戻っていた。なお、境内下のトイレはこの日なお故障中。

(本文 以上)

① 当日のメンバー



←(後列・左から 敬称略)

薦田、宮本、河野、山國、後藤、泉家、中久保、斧田

←(前列・左から)

武田、中村、倉谷、黒山

② : 天狗杉前—倒木を前に「一思案」



③: 国有林から倒木が重なる自然歩道を見下ろす



④ : 作業手順を相談しながら—天狗杉付近



⑤ : これで何とか通れそう—右の天狗杉は健在



⑥：脇道の作業前—通行不可の黄テープあり



⑦：絡み合う太い枝を払っていく



⑧：何とか通行可—崩れた路肩には赤テープ巻き



⑨：一寸一服—幹の枝切り跡(タコ足モドキ)



⑩：脇道3本目の支障木



⑪：除伐を済ませ前進



⑫ : 45 林班巡視要図—作成は山國氏



⑬ : S2 里道脇のモニタリング調査区—影響少か？



⑭ : 谷筋 V1— 帯も無事の模様



⑮ : 里道 S3—根起しはあるが通行に支障なし



⑯ : 寄り道「森のキノコ(白色ならマツオウジ?)」



⑰ : 寄り道「森のキノコ(アカジコウ??)」



⑱：44 林班巡視要図－山頂から西端の M3 途中迄



⑲：山頂部に進む－この辺の被害は軽そう



⑳：山頂部を M3 へ－根起しが見られ始める



㉑：山頂部一足の踏み場のない中折れ、落枝も



㉒：M3 の調査区へは前進不能－断念



㉓：進入不可の赤テープを巻いておく



㉔：山頂部の根起し木



㉕：足場を作って超え易く



㉖：自然歩道から里道への分岐標を仮設置



㉗：キノコ3態の1(サルノコシカケの群落)



㉘-1：郡上八幡・鷲ヶ岳山麓の台風禍
(井上宅近所の別荘・唐松根起し)



㉘-2：広葉樹の倒木で早速の薪づくり(郡上八幡)

